

高館高同窓会報

特集 昭和40年代の母校は

当時の先生方が 学校を訪れ 回想



42年ごろの学校

去る8月10日、昭和40年代に館高に勤めておられた先生方が本校を訪れた。当時の先生が旧の職場を訪問しよつと企画したものである。

台風九号の影響で強雨の中だったため、桜並木や松林内の散策などはできなかつたが、当時の職員室(現図書室)を見てかつての職場を思い浮かべたり、また教室から窓越しに拡張された校庭、昔のままの銃器庫(現倉庫)、整備された松林などを遠望しながら当時を回想していた。これを機に編集委員は40年代の館高をクローズアップしてみた。



母校を訪れた先生方

木造校舎から鉄筋校舎へ

「玄関が結構高い大正建築を忍ばせる校舎だったね」と訪れた先生の一人は木造校舎を懐かしむ。そう昭和40年代の館高は、それまでの木造建築から鉄筋建築に順次建て替えられた時代だった。改築は南校舎から始まり本館が改築されたのは44年3月。その後も渡り廊下、南校舎の増改築と続いた。46年には創立50周年を記念して、校門も玄関前庭も、中庭も新しく造られた。また長椅子が懐かしい講堂は54年2



47年ごろの学校

月に新体育館ができるまで各種行事に使われていた。なお当時の体育館は現在も第二体育館として使われている。

激動の40年代

東大入試が中止された昭和44年前後は学生運動が吹き荒れ、かたや舟木一夫の高校三年生がヒット、高校生間には三無主義が流行っていた。館高にも自由化の波が押し寄せ、校章に二本の白線入り制帽の着用が45年に自由化され、修学旅行にもグループ別自由行動が導入された。校内討論大会の中止、生徒会誌「大成」の発行中止も44年から47年まで続いたが、48年には復刊し現在も続いている。また女子高の前を走るときわくわくした城沼一周マラソン大会は、交通安全の関係で熊谷町方面にコースが変更になった。



部活動・大成祭

当時の部活動は部室もなく、教室を使っていた。合宿は教室に寝具を持ち込んで寝泊りし、炊飯はトタン屋根の炊事小屋の土のかまどで行ったり、校庭に穴を掘って飯炊炊飯をやったりしたものである。43年に合宿所が44年に部室が完成し環境が整備されていた。

44年には、全国高校総体(インターハイ)が群馬で行われた。レスリング部、体操部、陸上部などが出場した。レスリング競技は館林市民体育館(郷谷)に聖太子殿下夫妻を遷して行われ、本校レスリング部は見事に全国優勝を果たした。



創立50周年記念式典

本校は大正10年、県下九つの旧制中学校の一つとして、館林・熊谷の人材養成の学府として創立された。46年11月13日には、創立50周年に尽力された13名の方々を壇上に迎え、創立50周年記念式典が盛大に開催された。記念大成祭は庄司蘭氏の講演を軸に行われた。

訪れた先生方より一言

「約半世紀を経ての訪問に感謝でしした」「往時のことが思い出され懐かしかったです」「うちもある体育館で教えたたちと汗を流したことが思い出されます」
(教えたたちへ)

「多感なる館高時代を忘れず 人生の大道を歩まれたし」などが寄せられた。



「会報発行十二年目を迎えて」

会報皆様にはご健勝にて、それぞれの分野でご活躍のごと存じます。皆様方には常日頃より同窓会発展充実のために格別なるご支援ご協力を賜り心から感謝とお礼を申し上げます。

同窓会も各支部の組織の充実と積極的な活動を通して同窓生の交流をいたし、仲間意識を高め先輩後輩の絆をより強くいたし、母校と共に将来に向かって夢と希望を持ってこれからも歩み続けて参りたいと存じます。

私は今、健康を守るために、

あいさつ



同窓会長 岩瀬 邦市

主治医の助言もあって毎日一時間ほど歩いたり、ゆっくり走ったりして二年になります。歩きながら思うことは自然を眺め、鳥の声をきき、雑草を見つめ、ゆっくり流れる利根川

を眺めながら岸辺で深呼吸する時は何とも言えぬ幸福を感じます。頭の上に天を見つめ、足の下に大地のぬくもりを感じる時に、今の日本の平和であり安心して生きられる

あいさつ

二十一年度にあたって

昨年四月に校長として着任いたしました。微力ではありますが、本年度も館林高校のより一層の充実発展のために、学校運営に全力を尽くすつもりです。特にこれから社会の中心で活躍していく館林高校の生徒たちにとって、「自己実現のための学び」を追究していくことが、大きな課題であると思っております。

さて、私は着任後ご案内をいたしました同窓会総会と支部総会のすべてに出席させていただきました。その折に、同窓生の皆様から心のごもった激励とご指導をいただきました。ここに、この場をお借り



校長 榑 仁

しまして深く感謝申し上げます。学校の状況につきまして簡単にご報告をさせていただきます。本年三月二日に平成二十年の卒業式が挙行され、全日制三三八名、定時制十名が卒業し、新たに同窓会に入会

いたしました。後輩達に暖かいご指導とご支援をいただければ幸いです。二十一年度も無事にスタートしました。正門前の桜並木が満開の四月八日に入式が挙行され、全日制二四〇名、定時制三三名が入学しました。

国家を社会を創造していくことが次の世代のために私たちが果たすべき役割だとしみじみ思っております。

母校館林高校は創立以来今日まで大正、昭和、平成と歴代の学校関係者、同窓生、地域社会の関係者のあたたかいご支援により大いなる歴史を残し、すばらしい足跡を積み重ね、後二年で創立九十周年を迎えることになりました。

皆様と共に母校が歩んできた道に思いを寄せながら九十周年を喜び迎えたいと思っております。

これからも皆様方の限らないご支援とご協力をお願い申し上げます。会報発行十一年目を迎えることに心から感謝とお礼を申し上げます。させていただきます。

本校の特色ある行事であり、伝統になっていきます五〇km強歩大会は、第三〇回を迎え四月二十五日に行われました。あいくの強い雨と風のため途中で中止となりましたが、参加した生徒諸君はよく頑張りました。他の部活動もたいへん頑張っております。詳細は進路状況とともに後の紙面をご覧ください。

在校する生徒諸君は、同窓の諸先輩の築き上げた伝統をしっかりと受け継ぎ、またさらに成果を上げるべく文武両道に励んでおりますので、これからもご支援とご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりますが、同窓会のますますのご発展と、同窓生の皆様のご健勝を祈念申し上げます。あいさつとさせていただきます。

OBが学校へ

平成20年度

開校記念講演会

去る十一月十日(月)に母校体育館にて開校記念式が実施された。その際、記念講演は、例年同様で活躍中の諸先輩方を、お招きしている。

今回は現館林市長の安藤 一雄氏に講演していただいた。演題は「私の歩んできた道。そして、ふるさとへの思い」。地元市長が本校OBだと知って、生徒達は少なからず驚嘆していたところであったが、安藤氏は優しく、親しみ易い語り口で、地域のこれからの発展の方向性や行政の大切さ、難しさなどを講演。

そして、自らの高校生時代のエピソードなども交えて生徒にも分かり易く話していただいた。

又、OBの立場から在校生への力強い励ましもいただき、生徒一同大いに勇気付けられた心に残る講演会であった。



OBによる

職業別進路講演会

五月六日(土)五、六時限目に、一年生を対象としたOBによる職業別進路講演会が開催されました。

各分野で活躍されている本校OBの方々が九名をお招きし、後輩達のために大変興味深く、有意義なお話をいただきました。生徒は自分が興味のある職種を事前に二、三選り、五、六時限目と二回に分けて講演を聴くことができたため、将来の職業選択を考えた貴重な時間になったと感じました。

各分野の第一線で活躍する先輩方のお話を、二年生の意識もきくと向上したと思っております。



- 【講師の方々(敬称略)】
- 河村 博 ホテルグランドパレス
 - 本澤 博幸 東武トラベル株式会社
 - 川田 順 川田会計事務所
 - 杉田 光章 館林厚生病院
 - 柴比呂 明 群馬銀行
 - 正田 茂 富士精工株式会社
 - 太田 佳伸 マイクロソフト
 - 中村 隆 空間設計室

学年同窓会

**懐かしい時代を
青々とした思い出
20年卒同窓会
開催**

「ハイイロります。」写真屋さんの明るい声が響く。五月二十四日午前十一時三十分、平成二十一年度同窓会の開会式だ。出席者十五名である。記録を辿れば、昭和三十一年発足以来五十三年目にして過去最低を記録してしまっただけだ。百九名の級友も、五十三名と半減し、全て八十一歳を超えた現実が照らせば合格の範囲と納得。会場は思い出深い館林市文化会館である。昭和十九年、五年生一学期の試験終了後間もない頃、生徒勤労動員令により、市役所東側の広場にあった軍需工場に動員され、夜勤等もあり教科書を聞く機会も殆んどないまま卒業を迎えた。そんな苛酷な環境の中、強固な絆と館中生の誇りを基に、耐え抜いた思い出が、あの辺り一帯に刻み込まれているのである。



館林中第20回卒業同窓会 平成20年5月24日

現在、同級会は六名の幹事により運営されている。会長は選任されていない。幹事は同級会の準備会以外に、年二回程度の会議を開く。その際は幹事以外に数名の級友に参加を依頼する。これは、より広く情報や要望を収集する為である。このことから発案実施に至った最近の事例を挙げると、平成二十一年度春の祝賀で、勲一等瑞宝章受章の元駐評議長黒川武、勲三等瑞宝章受章の元関東農政局長増田基平、高君の合同祝賀会、平成十二年より毎年、級友の現況を確かめた冊子「同級会の枝折」を作成し、好評を博したが、個人情報保護の観点からして、現在休止中。平成十七年、卒業六十周年記念同級会に際し、記念品を作成配布。感謝の便り殺到。来年は卒業六十五周年を迎えるに当たり、予てより懇話の、戦場に散った級友に対する慰問行事の具体化に、鋭意努力の覚悟である。

群馬県立旧館林中学校、第二十二回卒業同窓会 幹事氏名 飯塚哲夫(会計)、栗原利男、西藤孝夫、田部井清、米田賢司、山野野郎(事務局長)以上
(20年卒 山野野郎 記)

豊かな白然に囲まれた群馬県立館林高等学校の木造校舎で学び、昭和二十六年第三回卒業以来続けられた我が同窓会(同窓会)は年代を重ねるにしたがって、体調不調の同級生が次第に減少し、その事務局は閉鎖され、毎年の幹事の選出に悩まされながらも、ついに七十七歳の高寿を記念した第十八回同窓会が「東つくばの雲晴れて」の旧校歌にちなんで筑波山の麓の温泉宿で盛大に開催された。こころで長いこと同窓会が続けられたのは我々小編 委員会長の初め、熱意のある同級生が比較的多いためである。



**ゴルフは白鳥
28年卒同窓会
開催**

これほど長く継続した同窓会は他に例がないと思われるので、本校の同窓会を初め他の同窓会同窓会にも活気を与えるような多大な影響を及ぼすものと推測される。我々の同窓会には集まる同級生が一人になるまではどんなことがあっても続けようとの決意を新にして、写真にもある通り、少しでも母校に貢献できることを急ぎながら校歌を合唱して閉幕された。

一人間には十友がほしいものだ」という長谷川操氏のゴルフ会談文にひかれて、平成15年10月「群馬ゴルフ会」を設立、私は会の事務会計幹事となりました。以後13回皆でプレー中、昼食時等で在学中や現況、子供や孫の話などをよく語り合っており、和気あいあいのゴルフを楽しむことが出来ました。

しかし古希もすでに過ぎだんだん参加人数が減り、第14回例会(19年9月26日)の運営維持に懸念がでて、病氣入院加療で欠席者多く止む無く淡会となってしまう。以後2年近く開催されずに居りましたが、しかしお互いに健康に留意し回復した人も出てきました。

一方中村貞夫会長などは病みながらも所属の倶楽部のグラウンドシニア選手権で平成17年度より5年連続5回も優勝するなどの偉業を達成してました。去る5月13日飯倉での群馬同窓会ゴルフ大会には、28年卒同級生10名が参加し、28ゴルフ会を再開しようとする意見が多く出て、来る7月29日に中村貞夫会員の実績を称えその姿を垣間見たくなり、その所属の城山カントリ倶楽部



部で第15回例会を開催することになりました。体調を整えて火山の参加者を期待しているところでありました。
(28年卒 大野善平 記)

当会は結成以来十数年を経過し現在に至り活動を続けています。「ゴルフコンペ」も積極的協力を得て五十八回目を開催する事が出来ました。

会の経緯について紹介します。選出年に学年同窓会を開催した時に「同級生ゴルフ」について呼びかけた約十数名の同意をえて初回は飯倉ゴルフ場にて行うこととして、ゴルフを主とした会を設立。会名は「二十九年卒にて「三九福会」として誕生。コンペ回数を「春夏秋冬」と外に館林高校同窓会「ゴルフコンペ」に合同参加にて年間四〜五回を目標に活動を実施してあります。

コンペ終了後パーティ開催にて、次回同級会場等を決定します。現在会員二十五名です。毎回の「コンペ」には遠方(東京、千葉)からの参加者もおります。また、二月例会懇話会を開催時に年行事予定を決定します。年々高齢化になり、昨年より、誰でも、何時でも何処でも手軽に出来るグラウンドゴルフを種目に入れたい所です。

これからは百回コンペを目標に頑張りたいと思っております。

入会希望の方
連絡先一三福会事務局 松本光夫
羽生市南八一七二〇
電話〇四八八五六一一五五八
(29年卒 松本光夫 記)

**人間は十友が
ほしいとゴルフ会
28年卒同窓会
開催**

**五十八回目の
同級生ゴルフ会
29年卒同窓会
開催**

支部活動

東京同窓会

参加会員の若返りと より多くの参加を求め

会長 大隈清道

東京、神奈川、千葉、埼玉と1都3県に在住する人たちを主体に構成する東京同窓会が、会合一つ開くのも難しいことが多く、会員が集う会は、春の親睦会、夏の納涼懇親会、10月の定時総会、そしてスキ者が集うゴルフコンペ、さらに、会員同士の「コミュニケーション」の深耕を進める目的で、年一回会報を発行しています。

昨年の定時総会では、落語芸術協会の真打落語家・柳家金語楼丸さんを招いて古典落語を堪能しました。

目下の最大課題は、若手会員の参加を増やして、活性化を図ることです。これまで参加していた会員の高齢化による参加率の低下に対し、これを力カバーする若い会員の参加が思うように進んでいません。その対策として、3月28日開催した親睦会で、「1」部活・サークル・地域・学生・幹事」について、改めて確認を行い、それぞれのグループ別ごとに会員に対しての働きかけを進める。②現在はゴルフ部会のみの特徴を中心とした分科会活動に、ハイキング、カラオケ、など新たに会員が集える

会を立ち上げて、若い会員の人たちへの呼びかけを強化することにした。

平成18年に発行した500ページを超える25周年記念誌のような大がかりな会報は望めないものの、会員の声を掲載する会報では、新たな企画を盛り込んで、従来以上に会員参加型会報へと充実を図っていくことにしています。

明和支部

図で見る明和支部同窓会

明和支部部長 小牟 進

平成二十年十一月二十二日に明和支部定例総会を多数の参加者により盛大に行いました。明和支部も同窓生のご協力により、はや八年が過ぎ、懸命に活動を続けています。今後継続的に発展を期するためにも、今回定例総会で同窓会の原点に戻り、会員の皆さんと共に認識を深めるため、同窓会を図式にして考えてみました。その図式をご紹介致します。



図の説明

同窓生の親睦、母校支援、同窓生の連携の輪が融合して、母校の発展と

なり更に3つの輪のベクトルが一つになり、母校の発展と同窓生の幸福へとつながる図式です。一見面白い図式に見えますが、何故かここから新しい楽しいものが生まれてくるような気もします。同窓生の皆様の地えざるご協力ご支援をお願いします。

千代田支部

OB松沢幸一氏(42年卒)

キリンビール社長に就任

千代田支部部長 武井 章良

このたび千代田町野野出身の松沢幸一氏(60)がキリンビール社長に就任しました。同窓生一同心より喜んで

います。上毛新聞の「トップトーク 東京の上州人」に郷士の顔れとして大々的に掲載されました。それによると、子供時代は野原を駆けめぐる野人的な性格で、千代田中(館林高)北海道大農学部(キリンビールという経歴で現在社長として活躍中)です。

さて、千代田支部では年に一度、秋に総会を行っています。

昨年は来賓として岩瀬同窓会長、猪熊館林高校長、谷津代議士及び近隣支部長のご参加に加え、松沢教育長さんも参加してくれました。今年は大谷町長さんの参加も予定しています。

それに合わせてゴルフ及びグラウンドゴルフを行い、会員相互の親睦を図っています。昨年平成二十年の例を挙げると、総会は新田家赤岩で

行い、参加人数は約三千名でした。ゴルフは上武ゴルフ場で行い、十二名の参加者で和気藹々のうちに終了しました。また、グラウンドゴルフは東部運動公園で行い、参加者は七名でした。

お互いに同窓生としての絆が十分に深まったと思います。一般に参加者の高齢化が懸念されていますので、若い人たちの参加を期待しています。今年も役員の方々がお願いの用紙を持って伺いますので一人でも多くの同窓生の皆様のご参加を期待しています。

板倉支部

支部活性化への取り組み

板倉支部部長 鈴木 政

平成二十年年度の支部総会並びに懇親会が二月に行われ、ご来賓を始め二十六名の会員の参加をいただきました。今回は初めて参加された方が六名もおり限られた時間ではありましたが、大いに盛り上がり楽しいひとときを過ごしました。当支部では会の活性化を図る意味で先づ人の集まる場に一人でも多くの参加者を募る呼び掛けをしようとする事務局が働きかけをしております。

恒例となりました50km競歩への参加(今年度は悪天のため自粛参加中止)や本部主催の各行事への参加等積極的に声掛けをしております。

特に一歩前に踏み出せない会員が多くなるとのことですので、知恵を出し合いながらアプローチをしています。

きたいと思っております。

太田支部

健康に感謝

太田支部部長 大杉 幸一

今年度の太田支部総会は、今まで総会会場として恒例となっていた太田市民会館が、老朽化に伴い建て替えのため利用出来なくなり親しみ深かった会場を離れ、太田グランドホテルに移して二月十八日に開催いたしました。

これも太田市の時代の推移かと思いがちな活動はできないが、他支部のような活動はできないが、今回の支部総会並びに懇親会も、例年同様活気に満ち館高同窓である仲間が集まり、歓談を通じてお互いの絆をより深く持つことができ、親睦としての意義が十分に発揮されたひと時でした。

昨年の世界の金融危機により、日本では戦後最大の経済危機と言われ、厳しい状況の今日ですが、支部の運営は会員相互の親睦を第一として、情報交換の場を大事に保有する必要性を痛感します。

総会と言う機会があり、皆さんと会える喜びと健康であることに感謝し、親しみのある内容を常に心掛けて行きたい所存です。



場 登 師 恩

茫々たるかな館高

青木 達郎 先生



大女尾島分校から館高へ着任したのは昭和37年で以後5年間勤めた。

校長は厳格な小島俊作先生であった。当時の社会科教師は鈴木秀一、久保田利重、飯塚克己、金井秀一先生と私であったが上記三名は己に鬼籍に入り、私も70歳という後期高齢者である。部活の顧問は卓球部、新聞部、演劇部であった。

新聞部は先輩後輩の評が強く自

粗野と暖かみ

藤巻 光夫 先生



梅雨中の或る日、上着としての登山用ヤッケを職員室に脱ぎ捨てて三年生の教室で授業をしていた。途中で激しい雨となり教室内が冷え切った。何度か身震いした後に「急に冷えて寒いなあ」と言う。と室内中央列の最後尾に着席していたわくつき生徒が無言で立ち上がり、肩を揺らしながら教卓に近づいてきた。

主に学校内外の記事をまとめて出版した。演劇部は廃部となっていたが、同好会として発足させた。文化祭には「海の底の六人」という人間の権限状況を熟っぽく演じてくれた。社会科の授業では時々ジベットという形式で討論を盛り上げさせた。昭和56年には13年ぶりに教頭として得任したが、第2回50キロメートル強歩や完成した大成会館での学習合宿の実施により館高生の個性を鍛える試みがなされた。

館高創立60周年記念に頒布された赤松の苗木も三メートル余に成長し、わが家の庭の一角から館高を想起させる緑として生き続けている。

私にとって第二の母校の発展を祈念して止みません。
青木先生は、昭和37年から2007年まで社会科の教員として、2007年から2017年まで教頭として館高をリードされました。

教卓の前で停止すると学生服の金ボタンをバラバラと外し始めた。暗闇でも赤いつもりかと少し緊張を以て心の準備をしていると、彼は上着を脱ぎ替わって手早くそれを畳んだ。そしてそれを教卓に置く。

「悪いけど、これを着てくんない」とやや凄みのある低音で言っただけの席に戻って行った。
「すまん、では慣れるぞ」と言っただけの学生服を着ると寒さが消え体の芯から暖かさが湧いてきた。総じて館高の生徒達は一見粗野で野暮だったがみんな心が暖かかった。

あれから40数年経つが今でも時々館高を懐かしく思い出している。
藤巻先生には、昭和37年から2007年まで、目標の達成をいじりました。

強歩大会の思い出

相沢 繁光 先生



館林高校強歩大会の第一回が実施されたのは昭和五十四年である。この行事は当時二十才の若い先生方が「今の高校生は何事も中途半端で駄目だ」と色々な人から言われる事がとても悔しい。今の高校生でもしっかりと目標をもたせれば何でも出来るという事を証明したい。そのため生徒を五十キロ歩かせる行事をやりたいので当時体育主任をしていた私に協力してほしいとのことであった。私は今の交通事情の中でそんなことは出

来ないと言っただけは反対した。しかし真剣に生徒のことを思う先生方の情熱に負けて安全なコースを探して実施しようといううちに成功した。そして大変な苦勞の末に約半年の準備期間をかけて何とか実施できる運びとなった。大会当日は生徒をスタートさせても何人の生徒が完歩出来るのか心配でたまらなかつた。しかし足の裏に大きな豆を作り足を引きずりながら九十七%の生徒が完歩したのである。生徒達のパワーには本当に驚かされた。あれから三十年、毎年強歩大会が実施された二コースを聞くにあつた頃の苦勞が報われた感じがする。そしてあの頃の経験がその後の私の教員生活で大いに役立った。館林高校と当時の先生方そして教え子たちに感謝である。
相沢先生は、昭和37年から2007年まで、保健体育の教員として館高をリードされました。

楽日

飯田 宏敏先生



新任で着任して15年の間お世話になりました。退職して一度訪れたことがありますが、駅周辺の様子や道が複雑になっており迷いました。館高で学んだことの二つは登山です。歴代の部長に世話になり乍ら富士山、奥秩父、北アルプスを歩きました。特に奥秩父縦走は鮮明に印象しています。「頭上注意」の掛け声と間違つて呑んだ灯油の臭いが今でも残ります。

ついで演劇です。教壇での声をつくるために地元の劇団に参加しました。館林女子高の理解もあって当時としては珍しい合同劇で関東大会に二度出場出来ました。部長とともに楽しい日々を送らせて貰いました。更に行事を創ることの楽しさですが、私の我儘を我慢して生徒会メンバーはよく立ち上げて呉れました。記念祭でのフォークダンスはは観てました。おまけは授業で「倫理」が出来ました。スピノザを語れたのは館高のみです。
飯田先生には、昭和37年から2007年まで、社会科の教員として館高をリードされました。



大泉支部 館泉会

グランドゴルフを始めた

館泉会会長 河内初光

皆様方のお力添えにより、その後も元気に活動を続けております。主な行事は新年同窓会、会報や名簿の発行、合同役員会、納涼会、春秋のゴルフ大会などです。本部同窓会主催のゴルフ大会や懇会・懇親会を始め、各地域の同窓会懇会にも参加させて頂いております。

最近、グランドゴルフを始めたいと思いましたが、大泉も始めたいと思っております。幸いに、二瀬貞衛先輩が町のグランドゴルフ協会会長をしておりますのでお世話になろうと思っております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



O B 登 場

館高東京同窓会の 設立の経緯と今後

23年卒 若岡三樹



昭和56年、館林高等学校創立60周年記念事業の一環として、当時の校長、故野木村浩氏、同窓会長、故石沢純孝氏、同窓会事務局より、館高東京同窓会の設立要請を受け、故五藤三郎氏(元館高東京同窓会)、故宇佐美洋氏(元副会長)等の皆さんが協力により、設立準備をスタートさせ私も手伝ったことになりました。

元五藤会長の準備と推進なる打合せをして、96年10月に新宿東大飯店に於いて、幹事3名に依りて設立準備

会を開催し、規約や議題、運営方針等を話し合いました。昭和56年11月の日に特筆の記念すべき、館高東京同窓会が誕生し、発会総会を開催することが出来ました。

館高東京同窓会は平成18年に創立25周年を迎え、現在26年目を迎えました。個人情報、プライバシー等の関係で会員参加者の減少が気になりますが、卒業生の皆さんは、館高東京同窓会の存在を認識し、進学や就職等で自衛圏に在任されている方は積極的に参加して頂きたいと願っています。

当会では講演会開催、研究発表の場としても活用できます。会員相互の親睦を図り館高の発展に寄与する場でもあります。

卒業生各位のご賛助を、切望申し上げます。

若岡三樹(元副会長) 日本シニアクラブ 館高支部 代表理事
〒370-0001 群馬県館林市三ツ木
電話 0286-22-1250(館高同窓会) 0286-22-1251(若岡三樹)
FAX 0286-22-1252(若岡三樹)

「健康」「家族」「仕事」 そして「挑戦」

34年卒 山本 邦松



私は現在東京在住でロータリークラブの会員である。入会以来23年間前出陣である。自分の人生を高く取れるとすると、後出陣が正しいのではないかと悩んでおりましたが、健康、家族、仕事の三つがうまくいってほしいと願っています。しかしながら、この世は天に向きません。健康、家族、仕事の三つがうまくいってほしいと願っています。しかしながら、この世は天に向きません。健康、家族、仕事の三つがうまくいってほしいと願っています。しかしながら、この世は天に向きません。

であり、新しい事業内容の会社を作った。今の会社は10年前に設立した日本初の民間さい帯血バンクであり、細胞を扱う会社である。これまではいくつかの重要な技術を確立し、海外に展開し、理解してもらった地道な仕事を中心であったが、今ではさい帯血が自由血や血液検査よりもより安全性が高く、移植用として利用される。今後の可能性としては、脳腫瘍、脳卒中、心臓疾患、アルツハイマー病などの再生医療に利用されるであろう。今後の発展が望まれており、夢が実現される機運が感じられて、その感動が本物になりつつある。

「健康」「家族」「仕事」の三つがうまくいってほしいと願っています。しかしながら、この世は天に向きません。健康、家族、仕事の三つがうまくいってほしいと願っています。しかしながら、この世は天に向きません。

館高同窓会 ゴルフ大会に参加して

31年卒 川生 宏



館高を卒業後二十一年の東京生活以来七十二歳まで館林に住んでいてもつい同窓会とは全く無縁でしたが、先輩に誘われて初めて館高同窓会ゴルフ大会に参加しました。

当日は顔見知りの先輩とは言っても皆さん六十過ぎの健康な親戚の手際のいい対応がうれしく、また同じ組には旧制中学に在籍された健達とした先輩もおられて大変楽しかったです。

昭和三十六年三月に
普通科を卒業しました。

36年卒 相澤 健志

高校時代の思い出は田舎町のはずれから片道四〇分の自転車通学です。おそろしく、多少の我慢強さと健康な体格作りで役立ったと思います。

もう一つは新聞部の活動でした。たしか万葉会館という建物の二階に部室があり半田先生という穏やかな先生が顧問であつたと思います。記事業、原稿書き、広西勉めなど、大人の経験のような感じを受けて感動していました。

高校を卒業し、一度はメーカーに就職

しましたが、思うところがあつて大学に入り直しました。

卒業年に司法試験に合格しました。高校卒業時には司法試験と法律家などという職業の存在すら知らなかったように思います。

人生のある時期に、その必要に自覚して努力する、ということこそそんなに難しくないとあります。それは自分がその努力を必要であると自覚しているからです。弁護士という職業はやり甲斐があり、依頼者の喜ぶ顔を見るのが本心にうれしいと思います。

もとより自分に厳しい生き方を要求されますが、それは企業人でも同じでしょう。

未だ現役、充実した毎日を送っております。

相澤健志、館高同窓会、メーカーに就職。後に中央大学入学。卒業、同窓会役員候補。弁護士候補。就職、ゴルフ。

大病を患ったという先輩が私より遠く遠くにドライブショットを飛ばし目を輝かせる思いもありました。

ほとんどの先輩で、お互いの健康を少々乱暴な言葉で語り合い、次回の再会を約束し合う和気藹々の楽しい一日でした。

さらに私は同窓会がこんなに楽しいとどうなのだとおそまきながら初めて知りました。

館高同窓会の館林支部の設立の話もあるらしいと聞きましたが、私は今まで同窓会活動に全く有縁無縁ではありませんが、その設立には是非参加をしてみようと思えました。



支 部 長		参 与	
東京同窓会	大隈 清通 (二十九年卒)	矢口 昇 (二十五年卒)	
板倉	鈴木 攻 (三十七年卒)	谷津 義男 (二十八卒)	
明和	小中 進 (三十一年卒)	松本 研司 (三十八年卒)	
千代田	武井 章良 (三十年卒)	安楽岡一雄 (四十一年卒)	
前橋	新井 耕一 (二十九年卒)	猪熊 仁 (母校校長)	
館原	河内 初光 (三十年卒)	岩瀬 弥市 (二十五年卒)	
本田	大杉 幸一 (三十八年卒)	小塚 泰男 (二十六年卒)	
足利	小幡洋次郎 (三十六年卒)	宇治川福司 (二十七年卒)	
		山崎 浩志 (二十八年卒)	
		山崎 博 (二十九年卒)	
		山崎 稔 (三十二年卒)	
		大塚 幸雄 (三十五年卒)	
		河本 栄一 (三十六年卒)	
		小幡洋次郎 (三十六年卒)	
		前山 秀樹 (三十七年卒)	
		小林 廣吉 (三十七年卒)	
		大隈 允雄 (三十八年卒)	
		山岸 勝美 (三十八年卒)	
		遠藤 和昭 (四十二年卒)	
		高橋 俊雄 (母校自治教員)	
		上田 裕信 (母校自治教員)	
		野村 博久 (四十三年卒)	
		和泉 昇 (母校教員)	
		藤原 和夫 (四十四年卒)	
		中津 康夫 (母校事務長)	
		尾形 哲男 (二十年卒)	
		橋本 満 (四十一年卒)	
		園部 己行 (四十四年卒)	

平成二十一年 同窓会本部役員

O B 登 場

体験からの学び

41年卒 橋本 文夫



過日、ある会合で複数の同窓生と再会した。アルコールも加わり、当時の思い出話となった。中でもひとしきり盛り上がったのは、数学の時の雲合戦であった。

降りしきる雲に気もそぞろとなった友が、「雲合戦をしたい」と声を上げた。先生は生徒の気持ちを察して、「どんな角度で投げれば一番遠くに飛ぶか証明できたらよろう」と言われた。それは上学年の内容であったが、みんなで

頭を働かせた。結果が出た頃は残り時間もわずかとなった。それでも、雲の中へ飛び出して、誰もがその角度を証明すべく投げ合ったのは驚くまでもなかった。

素手や裸足での雲合戦のため、手足の感覚が無かったことも忘れがたいことであったが、投げる角度を数理的に解析できたその時の感動が鮮明によみがえり、今回の盛り上がりとなった。

今、学んだことを活用できるようにすることが教育で問われている。学問しかり、行動様式しかりである。何のために学ぶのかを考え、自分で納得しながら、あるいは体験し感動しながら学ぶための「体験」が、技能となることを、実感した出来事であった。

橋本氏は、館林市立第一小学校教員を経て、平成十九年六月より、館林市教育委員会教育課長に就任された。

生徒に毎日教えられ

47年卒 金子 博



私の高校時代は、3年間レスリング部に所属し、レスリング中心の充実した高校生活を送った。勉強は父母に迷惑がかからないよう程度に頑張りました。そんな私が当時憧れていた高校の教師になることは自分でも思いませんでした。教師生活も33年目となりました。

平成21年4月からは、群馬県立太田フレックス高校に校長として勤務しています。校長室から広いグラウンドを眺めると、高校時代の様々なことが思い出されます。そして、この高校を任されている責任の重さとも感慨を覚えます。

その太田フレックス高校は、平成17年度に開校した新しい高校で、「生涯学び続ける生徒の育成」が教育目標です。

しくみは、1部は午前、2部は午後、3部は夜間とに分かれ、生徒はどの部かに所属します。授業は全て自分で選択し、自分の時間割を作ります。学年もクラスも別個もない大学のような単位制の高校です。3年間で卒業してもいいし、4年間かけて卒業してもかまいません。自分の生き方を考え、勉強のスタイルを教え、生活のスタイルを教えようというコンセプトです。他に週3回授業も併設してあります。

いまは高校時代の恩師や友人や自分自身を思い出し、多くの先輩方の教えや素晴らしい職員に支えられ多種な生徒から日々色々なことを教えられるなか、楽しく勉強しています。

校長 金子 博
〒370-0192 群馬県太田市太田
太田フレックス高校 校長室
TEL 0276-22-1111 FAX 0276-22-1112

館林高校の思い出

42年卒 松沢 幸一



千代田町の中学校から館林へ進学し、3年間、約10kmを雨が降っても風が吹いても自転車を通った。まだ鈍かったが経済の高度成長時代で、今よりずっと活気に溢れていた。一年生の秋には、東京オリンピックあり、上武洋二郎先輩が現事に金メダルを取った。ごく身近なこととして大々感した。

中学校までは勉強ばかりだったが、館林ではそれまでとは違う友人や先生方に出会った。市内からの生徒は、最初、スマートでことなく誇るように見えたが、時間と共に心がしれ多く多くの友人が

レスリングと私の人生

平12年卒 長島 和幸



思い起こせば、館林高校での3年間はレスリングに没頭した日々でした。先生方から出される課題に無暗苦闘し、眼たい目をこすりながら朝練習に出掛けたものです。

私はレスリングを小学校3年生のときからはじめ、高校、大学、社会人に至る現在までの約15年間、競技し続けてきました。しかし、体力的にいつまでも競技生活を続けることはできません。また、スポーツの分野においても経済危機の波は押し寄せ、いつスポンサー企業が撤退

出来た。レスリングの久保田先生、サツカリーの飯島先生、小林先生、藤巻先生など、熱血肌の先生が多かったが、中には毛沢東や紅衛兵、北朝鮮を礼賛する先生もいた。いろいろな考えや主張があるということを知るとともに、客観的に物事を見る訓練になった。お陰で、その後の大学紛争には巻き込まれずに済んだ。勉強に最も厳しかったのは、2、3年時担任の奥澤義一先生だった。先生は数学が専門だが、先生の影響で何事にも目標をもって勉強する姿勢や習慣が身についた。数年前に亡くなられたが、恩人として今でも大々感謝している。

今後も館林高校が重毛の人を鍛え育てる学び舎として、大いに発展していくことを期待している。

松沢氏は、キリンビール（株）入社後、キリンローカル営業、キリンホールディングス関東支店副社長を経て、現在、キリンビール（株）代表取締役社長に就任された。

●今年のごゴルフ●

【同窓会懇親ゴルフ大会】開催される

五月晴れの5月13日(水)第10回館林高校懇親ゴルフ大会が、94名の同窓生が集い板倉ゴルフ場で盛大に開催されました。

館林近郊はもとより東京から参加された同窓生もおり、先輩・後輩が昔話に花を咲かせながら、優勝を目指して頑張りました。

来年は記念すべき第11回を迎えます。数多くのゴルフ愛好者の参加を得て、大会を盛り上げたいと思います。

成績は、次の通りです。(敬称略)

優勝 龜山進一(館林) 71.2
準優勝 中村貞夫(邑楽) 71.8
第三位 湯澤真一(館林) 73.4
第四位 野村則夫(館林) 73.4
第五位 車崎光知(東京) 73.6
ベストスコア 三田成男(東京) 78

◆歴代優勝者

- 第1回 荒川 武雄(大泉)
- 第2回 大隅 允男(館林)
- 第3回 三田 成男(東京)
- 第4回 赤坂 宏(館林)
- 第5回 小久保 清(千代田)
- 第6回 荒井 昭(東京)
- 第7回 相澤 繁光(館林)
- 第8回 高沢 時雄(太田)
- 第9回 相澤 建志(東京)
- 第10回 龜山 進一(館林)

●来年の「ゴルフコンペ」

期日 平成22年5月12日(水)
会場 板倉ゴルフ場

館高Now

男子の意気は「い」に見る
平成二十一年度球技大会



去る7月15日(水)、16日(木)の二日間に行われ、今年度の球技大会が実施されました。
「チームスポーツを通してクラスの連帯感を高める」という目的の下で、生徒一人一人がそれぞれチーム一丸となって取り組むことができました。種目は去年と同様でサッカー・ソフトボール・バスケットボール・卓球の4種目で行われ、各種目とも選手決めから熱心に行っていました。また、クラスTシャツの作成も球技大会に向け、クラスが一つになるのに非常に効果的なものであったと思います。球技大会当日では、開会式

の中での「やるぞ宣言」で「やるぞー」「やるぞー」と三年生の体育委員の後に続いて、全生徒が同じく叫ぶ瞬間に各クラスともに、大会での優勝への意気込みが確かなものになるのがわかりました。そして、実際の各種目とも生徒の積極的な姿勢が見え、非常に充実した球技大会でした。

大会の結果は、左のとおりです。
第1位 3年6組 合計点14点
第2位 3年1組 合計点19点
第3位 1年2組 合計点20点
第4位 1年1組 合計点25点
第5位 3年4組 合計点21点
この球技大会とおして、学んだことや得たものが、二学期に行われる「体育祭」に受け継がれ、さらに学習面においても、クラス内で互いに切磋琢磨しながら勉強をしていく姿勢を養ったと確信しています。

●定時制だより

四月八日の午後四時半から、定時制の入学式は舉行されました。ここ数年にない33名という多数の新入生を迎え、復学の1名を合わせた1年生の在籍数は34名。2年生以上の在校生の合計30名を上回る一大勢力です。人数が多くなつて例年よりはややかにやかですが、学校全体としては相変わらず落ち着いた雰囲気、昼間の仕事の疲れも見せずどの授業にも集中し

て取り組んでいる生徒がほとんどです。特に2年生は、5月末まで全員が無遅刻無欠席の奮闘を続けられました。

さて、今年の定時制ですが、例年どおり基礎基本の徹底、基本的な生活習慣の確立を目標の中心に据えて、生徒一人一人にきめ細かな指導をしています。特に外国籍の生徒への日本語指導には、この春赴任した三宅敏夫(45年卒) 教諭が同窓会として「日



「社会保険の仕組みと年金」と題して講演する富博明氏

本語クラブ)を立ち上げて対応しています。61周年を迎えた開校記念式では、視聴覚室に新調された校歌

パネルを見ながら、元気に校歌を歌って講演会の講師、社会保険労務士の富博明(45年卒)先生をお迎えしました。

部活動では、バドミントン部はダブルスで準優勝したものの、残念ながら全国大会へのキップは逃してしまいました。今年も陸上部が、2名3種目で優勝、全国大会へとコマを進めました。
(教頭 上田裕信)

進路状況

今年度の進路決定状況は、四年制大学が195名、専門学校が6名、留学が1名、就職者が6名という結果でした。また、進学努力継続者は30名でした。

特徴としては、就職者が例年になく多く、2名が警察関係の公務員に、4名が無内の民間企業等に就職しました。

また、合格者が多かった大学としては、日本大学に35名、東洋大学に31名、群馬大学に20名、千葉工業大学に20名、獨協大学に17名、立正大学に14名、東京電機大学に14名などとなっています。離開大学としては、筑波大学、金沢大学、千葉大学などの国立大学に、慶応義塾大学などの私立大学に合格しています。さらに、MARRCの合格者は、明治大学が8名、青山学院大学が4名、中央大学が4名、法政大学が6名であり、合計22名となっています。

なお、筑波大学には公募制推薦で、慶應義塾大学にはAO入試で、また、センター試験利用入試で78名が合格していることから、多様化した入試方法を利用した結果であることがわかります。自己の生き方に応じて、学部・学科を選択し、得意な教科・科目で受験できるように入試方法を研究するとともに、適切な対策を立てた上で計画的に学習に取り組む

ことが栄冠をつかむことにつながるものと考えます。
今後も、同窓会の皆さんの期待に応えられるよう、進路指導をしていきたいと考えておりますので、どうぞご支援のほどよろしくお願いいたします。

進路先状況

	()内は前年度
国立大学	36 (52)
私立大学	159 (138)
短大	0 (3)
大学校・留学	1 (1)
専門学校	6 (4)
就職	6 (2)
自営	0 (0)
進学努力継続	30 (29)
合計	238 (229)
進路決定率	87.4 (87.3)
大学進学決定率	86.7 (87.0)

私立大学

青山学院大学	4
明治大学	8
中央大学	4
法政大学	6
東京理科大学	5
芝浦工業大学	5
日本大学	35
東洋大学	31
駒澤大学	9
専修大学	12
同志社大学	3
など	389名

国公立大学

茨城大学	2
筑波大学	1
群馬大学	20
埼玉大学	2
千葉大学	1
新潟大学	1
富山大学	1
金沢大学	1
信州大学	1
会津大学	1
高崎経済大学	3
山梨県立大学	1
都留文科大学	1
など	36名

部活動状況

今年も県高校総体に13競技が参加し、総合順位は10位(昨年13位)であった。

その中でレスリング部の池田圭介、森田史博、木村政貴、但馬恭裕の4名が関東大会出場権を獲得した。またソフトテニス部も美山・濵本組が個人ダブルスで優勝を制し、関東大会出場権を獲得した。さらにサッカー部は第2シードの桐生第一高校を破り、第3位という好成績を収めた。引き続き開催された関東大会では、伝統のあるボート部も加わり白熱した戦いを繰り広げた。結果はレスリング部の木村政貴が76kg級で優勝。森田史博が66kg級で第3位、池田圭介が65kg級で第4位とそれぞれ入賞した。また総合順位でも5位と大健闘した。ボート部は期待の2年生の松島・小林組がダブルスカルに出場し、第4位と健闘した。ソフトテニス部の美山・濵本組は複戦の末、1回戦敗退となった。

また文化部も顕著な成績を収めている。囲碁では、新井淳が全国高等学校囲碁選手権群馬大会で第2位。将棋では、高等学校将棋選手権大会・団体男子3位という好成績を収めた。NHK杯全国放送コンテストでは、朗読部門で田沼裕基が最優秀賞を受賞し、夏の全国高等学校野球選手権群馬県大会開会式の開会を務めることになった。

館高Now

【レスリング部】.....今年度は、三年生三名、二年生三名、一年生三名の総勢八名の部員となり、学校対抗戦においての勝負が厳しい状態にあります。しかし、部員一人ひとりが自分の課題を明確に

し、その課題の克服と自分の強みをさらに伸ばすべく、短い練習時間を集中力と工夫でカバーし、関東・全国で活躍することを夢見て、日々の練習に励んでおります。

その結果として、県総体では決勝まで駒を進め、二位となりました。昨年秋季の新人大会では、三位という結果であったので、インターハイへの学校対抗戦での出場に期待ができる大会となりました。個人戦においては、3名の選手がフリースタイルとグレコローマンスタイルの両スタイルで優勝し、四名の選手が関東大会の出場権を獲得することができました。その後の関東大会においても、優勝が一名と二位が一名、四位が一名という結果を出し、学校対抗戦においても五位という成績を収めることができました。

インターハイ予選においては、残念ながら学校対抗戦は一回戦敗退という結果になってしまいましたが、個人対抗戦ではその悔しさを試合にぶつけ、四名の選手が優勝し、本戦への切符を手にすることができました。今後はスカウト活動にも、より一層の努力をし、より多くの部員を獲得したいと思っております。また、限られた時間と限られた人数で限らない努力をし、全国で活躍できるチーム・選手を輩出していきたいと思っております。

【サッカー部】.....新人戦で準優勝、関東ユースリーグ(一部)第4位、県高校総体でも第3位と好成績を収めています。群馬県内の力が拮抗している中、考えたプレーと勝負強さが現在の結果に表れているようです。インターハイでも4大会連続のベスト4入りを目指して頑張っていきたいと思っております。

また生徒一人ひとりが文武両道を目指してあり、サッカーを通して人間育成を図る場と考えています。今後ともよろしくお願いたします。

【ソフトテニス部】.....こんにちは、ソフトテニス部です。今年度はたくさんのお新入部員を迎え、三年生九人、二年生七人、一年生十二人の計二十八人で活動しています。大塚町クラブ杯では優勝と第三位、県総体でベスト16入り、関東大会出場を果たす等、活躍しています。

今後は一人一人が強くなることも大切ですが、全員が一丸となって勝ちに行く姿勢を持つことを目標とし、さらに気を引き締め、日々の練習や試合に挑んでいきますので、応援よろしくお願いたします。

【硬式野球部】.....今年度は三年生19名、二年生16名、一年生15名の計50名で活動しております。昨年の秋季大会では7年ぶりのベスト4に進出し、多くの同級生の方々から声援を頂きました。本場ありがとうございました。また春季大会では、関東大会に出場した前橋育英に乱打戦の末に破れ、その後もチーム力が向上せず練習試合の結果も良くない時期が続きましたが、6月に入りようやく調子が上がってきました。

7月には、甲子園出場をかけた選手権群馬大会が行われます。ラストチャンスですので、部員一丸となって戦っていきますので、ご声援の程、よろしくお願いたします。

【ボート部】.....現在ボート部は、二年生三名、一年生五名の計七名で活動しています。六月に行われた関東大会では、2年生ながらダブルスカルルにおいて四位に入ることができました。三年生はいませんが、部員一団力を合わせて日々練習に励んでいます。全国で勝てるチームを作ることを目標に活動しています。しかしながら、部員不足のため、部内の競争意識が低く、この数年満足いく結果を残すことがで

きていません。しかし、現在の部員は練習に対する意識・意欲も高いので、秋の関東選手権大会では、久しぶりの優勝を目指したいと思っております。また、部活動を通して、競技力だけではなく、人間形成の場としていろいろなことを経験させてあげたいと思っております。

【演劇部】.....演劇部では昨年より、幅広く挑戦して活動しています。今年度NHK杯全国高校放送コンテスト朗読部門で、田沼裕基が最優秀賞を受賞し、関東大会出場を決めました。彼は昨年関東地区高校放送コンクール朗読部門で優勝し選ばれており、NHK杯で活躍が期待できます。今年度は新入部員を多く迎え、舞台発表の準備に熱が入る一方、「朗読発表」が目標の一つに加わり、部員一丸となって練習を続けています。

【囲碁将棋部】.....こんにちは、囲碁将棋部です。今年度は、三年生九名、二年生四名、一年生十名の総勢二十三名で活動しています。多くの新入部員が今年も入り、活動の体制は整っています。ただ、一点、将棋をする生徒ばかりで、囲碁をける生徒がほとんどいないのが、昨年末の悩みです。今年度は、囲碁のみならず将棋の方でも実力のある生徒が加入し、大会成績も期待できるものとなっています。先日の高松杯囲碁選手権群馬県大会では、三年生の荒井淳が準優勝し、夏休みに日本棋院で行われる全国高校囲碁選手権の個人戦出場を決めています。荒井は三年連続での出場です。また、高校将棋選手権県予選では、惜しくも全国大会出場は逃したものの、一年酒井康典、時崎勇輔、二年大澤雄二の三人が団体戦で二位となっており、今後が大変楽しみです。皆様方におかれましても、どうぞ応援よろしくお願いたします。

【剣道部】.....団体ベスト16
【ボート部】.....県総体はありません
【水泳部】.....8/1実施予定

平成21年度群馬県高校総体大会成績

【レスリング部】

F G 55kg	1位	池田 圭介
G 60kg	4位	松本 高彰
F 66kg	2位	
G 66kg	4位	森田 史博
F G 74kg	1位	木村 政貴
F G 96kg	1位	但馬 恭裕

【サッカー部】

4名関東出場
学校対抗2位

【バレーボール部】

ベスト4(3位)

【ソフトテニス部】

2回戦敗退
団体2回戦敗退
男子個人ダブルスベスト16
瀬本、美山 関東大会出場

【山岳部】

11位

【軟式野球部】

ベスト8

【卓球部】

団体ベスト16
バスケットボール部
ベスト16
バドミントン部
団体ベスト16
テニス部(空手道)
団体ベスト16
空手道部
団体形初戦敗退
団体組手ベスト16
個人VU LE M-I-N-H
N-H-A-T U-S-T
ソフトボール
1回戦敗退
陸上競技部

【剣道部】

団体ベスト16

【ボート部】

県総体はありません

【水泳部】

8/1実施予定

今年の館高同窓会(総親睦会)は11月14日(土)

～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で11回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合って集いましょう。

好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事 昭和51年卒業生たち



↑ 昨年の総会で「奮ってご参加下さい」と呼びかける今年の代表幹事たち

日時：平成21年11月14日(土) 午後5時

会場：ジョイハウス (TEL0276-73-4669)

◎参加券は総会幹事さん(下記)からお求めください。
(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

※4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

平成21年 総会幹事

大沢 大	山岸 博	早川 元久	津久川 隆夫	堀井 隆	野村 博久	渡部 和昭	神田 静一	大橋 篤	今成 朋男	白井 佳長	澤田 青雄	橋田 常司	大塚 幸雄	山田 中	中島 大八	岡野 上	川生 宏	山口 豊巳	新井 耕一
宇 智彦	井出 康弘	久保田 道也	渡辺 浩	渡辺 昌次	藤原 直幸	藤岡 正	須永 理夫	伊藤 俊三	小笠 隆雄	高橋 勲	和田 千明	藤田 洋行	小林 究夫	堀田 勝	渡部 博	石井 隆雄	青藤 一美	栗原 保明	坂野 次雄
原 康浩	吉水 敏昭	奥野 博	中島 満	野村 喜治	早川 紀正	野田 徳重			初谷 充敏		宮内 敦夫	堀山 豊昭	長谷川 正博	手島 和雄					堀山 芳弘

♪ 遠征大会にOBも参加を♪

遠征大会に、0日の皆さん挑戦してみませんか。板倉支部は3年前から支部参加して区間をたすきをつないでゴールしています。個人参加でもよいと思います。ぜひ参加して現役生の激励を。次回(土)は平成22年4月24日です。

奥野 博	中島 満	野村 喜治	早川 紀正	野田 徳重	初谷 充敏	宮内 敦夫	堀山 豊昭	長谷川 正博	手島 和雄
奥野 博	中島 満	野村 喜治	早川 紀正	野田 徳重	初谷 充敏	宮内 敦夫	堀山 豊昭	長谷川 正博	手島 和雄

事務局より

● 総会幹事をご推薦ください。上の総会幹事の欄で、空欄のある学年は補充する方をご推薦いただければ幸いです。よろしくお願いたします。

● 次号の同窓会報を送付希望の方は、会費として千円を、郵便振替でお送り下さい。

□ 座番 00652002172533

□ 座名 群馬県立館林高等学校同窓会

● 今年度の事務局員は、和泉、田口、森口、桂木です。

編集後記

今号の一面特集は「昭和40年代の母校」と題した。8月10日に昭和40年代在職教員の旧職場訪問があったので、それを機に、館高五十年史や八十年誌、卒業アルバム等を資料として当時のことをまとめたものである。40年代のOBの皆さんには思い出を解っていていただけたかと思う。

その際に、学校には42年3月卒業の卒業アルバムが保管されていないと伺った。そこで同窓生に学校保管用に寄贈してくれないか呼びかけた。

求む(42年3月卒業の卒業アルバム)

発行 群馬県立館林高等学校同窓会
〒374-0041 群馬県館林市富士原町一三四一
TEL0276(セ)09307
http://www.educ-pref.gunma.jp/gaku/
kou/taisho/yesu/

編集委員(山田、飯島、前山、山岸、渡部、鈴木、藤倉、渡部、和泉)